

195 キョウチクトウ中毒

担当	検 査 チ ャ ー ト
家畜保健衛生所	(1) 疫学調査 (2) 臨床検査 (死亡畜、と畜等) (血清) (胃内容物) (3) 剖検
病性鑑定施設	オレアンドリン定量分析* (+) (-) (4) 病理組織検査 (+) (-)
判定・結果	(+) (-) (+) (-)
最終判定	判定は総合的に判断する。
その他	* 血清中のオレアンドリンの定量分析は、動物衛生研究所に依頼する。

→類似疾病検査

- ① 2 炭疽 ② 177 硝酸塩中毒 ③ 179 低マグネシウム血症 ④ 青酸中毒

(1) 疫学調査

- ① 庭木、街路樹の剪定枝の給与、飼料作物への落葉の混入などキョウチクトウ、セイヨウキョウチクトウ(以下キョウチクトウ)の摂取があった。
- ② 突然死
- ③ 同一飼料を与えた牛群のみで発症

(2) 臨床検査

- ① 歩様不安定、起立不能
- ② 聴診により心悸亢進または徐脈
- ③ 一般症状の悪化
- ④ 給与飼料中にキョウチクトウ葉が混入している。

(3) 剖 検

- ① カタル性、出血性胃腸炎、心臓、漿膜、粘膜の点状出血。血性あるいは透明な胸水、腹水
- ② 胃内容物中のキョウチクトウ葉が確認される。中毒量は乾燥葉で 50mg/kg 程度

(4) 病理組織検査

肺水腫、心筋壊死などが認められる場合がある。

その他:

(オレアンドリン定量分析)

血清中オレアンドリン濃度の定量: LC-MS/MS 法による¹⁾。オレアンドリンが検出された場合、本中毒が疑われる。

オレアンドリンの定量は、動物衛生研究所に依頼する。

(参考文献)

・家畜中毒診断のためのオンラインマニュアル

(http://www.naro.affrc.go.jp/org/niah/disease_poisoning/manual/index.html)

1) Tor, E.R., et al.: J. Agric. Food Chem. 53, 4322-4325 (2005).